

学校関係者評価報告

優和福祉専門学校 学校関係者評価委員会
(令和3年3月1日開催)

評価項目ごとの委員の評価・意見

1 教育理念・目標

今回のカリキュラム及び求められる介護福祉士像の見直しを基に教育目標を改正したが、今年度は新型コロナウイルスの影響で説明する機会が減少した。

教育の理念・目標を発信することは非常に大切なことであるが、学校側の一方的な自己満足になりがちである。SNS などを利用しながら、学生目線で発信することが良いのではないかと。学校は発信の場を提供することが重要だと思う。

2 学校運営

介護は3K、4K、給料が低いなどの暗いイメージが先行して敬遠される現状がある。その認識を払拭するためにも、小中学生からの職業体験が必要になってくる。

しかし、核家族化がすすみ、高齢者と同居していない現状があり、高齢者と若者との接点が少なく、また最近の60歳代のお爺さん、お婆さんは若く、小中学生のお孫さんにとっては介護のイメージがわからないという状況もあるのではないかと。

この状況の中で、教育活動の情報公開を積極的にすすめることは重要であるが、介護の大切さ、親しみやすさなどの啓蒙活動も併せて取り組む必要がある。

3 教育活動

今年度は新型コロナウイルスに影響され、休校措置を取った分、夏季休業を短縮して授業時間を確保してきた。その中であっても、万全の予防策をとって後期の介護実習が実施できたことは、実践力を養成するためにも有効でした。

4 学修成果

入学時には話もよく出来ない学生が、留年しながらも先生及び周りの学生の支援もあり、成績もよくなり今年大きく成長している。

退学者が今年度2名出ましたが、学力面及び本人の介護目標をしっかりとしたものができるよう、先生方の支援努力に期待したい。

5 学生支援

介護福祉士を目指す学生への経済支援は、今までの修学資金制度、本年度より始まった高等教育無償化制度など公的な経済支援が充実している。今後も新型コロナウイルスの感染予防を徹底して多方面に渡って支援する必要がある。

6 教育環境

校内の施設・備品は十分に整備されているが、年々施設等は老朽化するので、計画的に更新、修繕するよう努める。また、ネット環境の整備、改善も図る。

7 学生の受入れ募集

介護現場での研修・実習の際、知識・技術は大切だが、その前に社会人としての一般常識が欠けている者が見受けられる。家庭や学校で教える機会が必要です。権利ばかりを主張し義務を果たしていない方が見られる。これは社会、教育全体の課題です。故に簡単に退職したりする職員も散見されるので、施設側が非常に困っています。優和の学生は一般常識があり、辛抱強く長く就職が続くというのもアピールするポイントとなる。

ICT活用が必要になってきて、また SNS を利用することも必要であるが、コントロールすることが大変である。学校は一方通行でもよいのではないか。

卒業生が高校等の母校へ近況報告するようなことは、介護福祉士の活動 PR に繋がるので募集活動には必要ではないか。

近年、介護職員の待遇もよくなっているのに、悪いニュースばかりの中、このような良い面を発信する必要がある。

○ 学校関係者評価委員

- | | | |
|----|-------|----------------------------|
| 委員 | 甘利 俊明 | 業界関係者（一般社団法人 山梨県介護福祉士会 会長） |
| 委員 | 栗原 信 | 業界関係者（社会福祉法人 信和会 理事長） |
| 委員 | 堀田 潔 | 業界関係者（特別養護老人ホーム 和楽 施設長） |